KAGAWA UNIVERSITY

高校生を対象とした公開授業科目(第１学期)
履修案内(シラバス)
~2024年度版~

「シラバス」とは・・・

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。
一般に、授業名、担当教員名、講義目的、
各回ごとの授業内容などが記されており、
学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。

香川大学マスコットキャラクター

【お問い合わせ】

香川県教育委員会 高校教育課 教育指導グループ
〒 760-8582　高松市天神前 6-1
TEL 087-832-3750　FAX 087-806-0232

香川大学 教育・学生支援部 教育企画課
〒 760-8521　高松市幸町1-1
TEL 087-832-1147　FAX 087-832-1155

※授業内容に関するお問い合わせは香川大学まで

【公開授業科目（第1学期）】

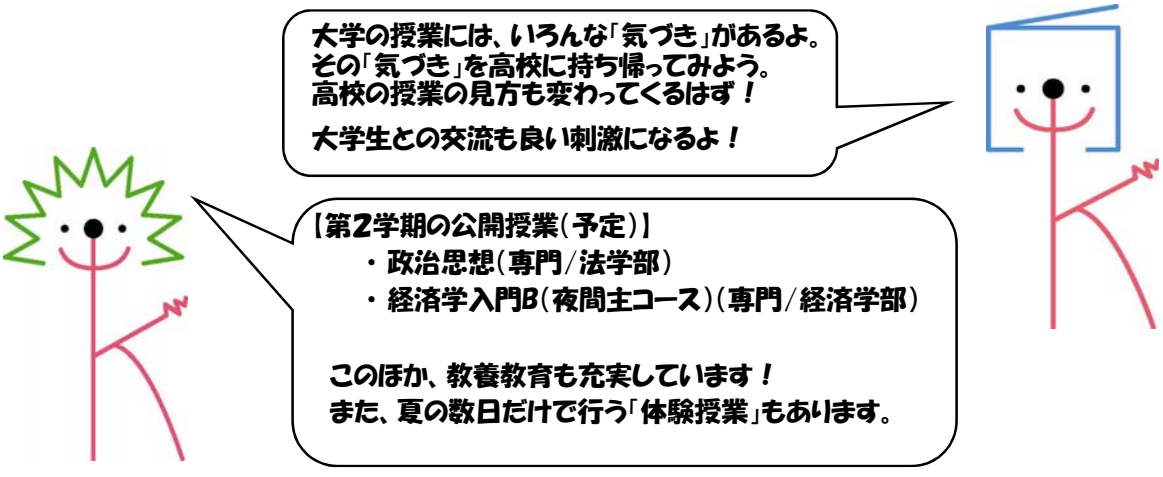
授業科目名	教養/専門（注1）	担当教員	期間（注2）	曜日	時間	頁
少子高齢化と経済学	教養教育	持田　めぐみ （経済学部）	4月11日～6月6日 （計8回）	木	16:20～17:50	1
神経科学の基礎ー脳を知る	教養教育	三木　崇範　他 （医学部）	4月11日～6月6日 （計8回）	木	16:20～17:50	2
AI時代の学校教育論	教養教育	神野　幸隆 （教育学部）	6月13日～8月1日 （計8回）	木	16:20～17:50	3～4
私たちの暮らしと経済学	教養教育	持田　めぐみ （経済学部）	6月13日～8月1日 （計8回）	木	16:20～17:50	5
加工食品と食生活	教養教育	小川　雅廣 （農学部）	6月10日～7月29日 （計8回）	月	16:20～17:50	6
化学	教養教育	山田　佳裕・吉原　明秀 （農学部）	6月11日～7月30日 （1日2回、計15回）	火	18:00～19:30 19:40～21:10	7
歌唱法基礎A	専門教育	若井 健司 （教育学部）	4月11日～8月1日 （計15回）	木	16:20～17:50	8
民法入門	専門教育	林田　光弘 （法学部）	4月16日～7月30日 （計15回）	火	16:20～17:50	9
刑事法入門	専門教育	平野　美紀 （法学部）	4月15日～7月29日 （計15回）	月	16:20～17:50	10
政治学入門	専門教育	金子　太郎 （法学部）	4月12日～8月2日 （計15回）	金	16:20～17:50	11
法学入門（夜間主コース）	専門教育	鹿子嶋　仁 （法学部）	4月12日～6月7日 （1日2回、計15回）	金	18:00～19:30 19:40～21:10	12
流通マーケティング論（夜間主コース）	専門教育	渡邉　孝一郎 （経済学部）	4月16日～6月4日 （1日2回、計15回）	火	18:00～19:30 19:40～21:10	13
国際経済学（夜間主コース）	専門教育	山ノ内　健太 （経済学部）	6月11日～7月30日 （1日2回、計15回）	火	18:00～19:30 19:40～21:10	14

（注1）　香川大学の教育は、特定の専門分野に限定されない幅広い知識・能力を養う**「教養教育（全学共通科目）」**と、専門職業人を養成するための**「専門教育（学部開設科目）」**によって構成されています。
１年次の間は教養教育を中心に、２年次以降は専門教育を中心に学びます。

（注2）　授業スケジュール編成の都合上、一部の授業においては、通常とは異なる曜日に開講したり、休講になったりすることがあります。
詳細は、15～16ページの「2024年度行事予定表」をご参照ください。
（昼間と夜間主コースで授業スケジュールが異なります。お間違えのないようにお願いします。）

（注3）　一部の授業またはすべての授業が遠隔実施となる場合があります。
その場合はパソコンとインターネットの通信環境が必要となります。

（注4）　初回授業の前にガイダンスを行います。初回が対面授業の場合は、開始20分前に香川大学幸町北キャンパス大学会館2階（17ページ参照）にお越しください。
初回が遠隔授業の場合は、別途お知らせいたします。



授業科目名 少子高齢化と経済学 Economics of Populati on Aging	時間割 ４月１１日（木）～６月６日（木） 毎週木曜日　１６時２０分～１７時５０分（計８回） ただし、5月９日（木）は振替授業で月曜日の授業になりますので、授業がありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 持田　めぐみ	

学習時間　　講義・演習90分×8回+自学自習

授業の概要

皆さんの中で、「少子高齢化問題」という言葉を聞いたことのない人はおそらくいないでしょう。しかしながら、人口構成が「少子高齢化」することの問題点について、自信を持って説明できる人は少ないのではないでしょうか。

この授業では、受講生同士でグループワークを行いながら、日本の人口が少子高齢化していくことの経済学的な問題点や、その対策等について、新たな知識を得た上で、今後大学生として、自分たちの生きる社会に関心を持ち、自ら進んで知識を獲得していくきっかけとなるような授業を目指しています。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。(D科目)

【キーワード】経済理論、少子高齢化、経済成長、労働、教育

授業の目的

『社会科学の女王』と称される「経済学」は、私たちの暮らしを取り巻く様々な現象を分析対象としています。この授業では、「経済学」がどのような視点でこの少子高齢化社会を捉え、どのような観点から分析を行っているのかについて学んでいきます。

授業内では、講義に加え、毎回メンバーを変えてのグループワークを実施することで、学部の異なる初対面の人たちとのグループワークの機会に慣れ、今後の大学生活及び職業生活において必要とされるコミュニケーション能力の向上に努めます。また、他のグループの報告内容を聞くことで、授業内容の理解を深め、人にわかりやすく伝えるためにはどのように工夫したら良いか、プレゼン技術の向上にも役立てることができます。

到達目標

（その1）日本における人口の少子高齢化現象について、経済学の枠組みではどのような問題として捉え、分析しているのか、具体的なポイントを挙げて説明することができる。
（その2）他者と協力して、授業内容の理解に努め、他の受講生にもわかりやすく説明することができる。
（その3）これから自分たちが生きていく未来の社会について、学修したことを踏まえた上で、自らの視点で考えてみることができる。
【香川大学共通教育スタンダード】①、②-1、②-2、②-4

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第１週　授業のガイダンス
第２週　少子高齢化と経済学（１）：人口構造の変化　その1
第３週　少子高齢化と経済学（２）：人口構造の変化　その2
第４週　少子高齢化と経済学（３）：経済成長とマクロモデル
第５週　前半授業のまとめ
第６週　少子高齢化と経済学（４）：少子高齢化の影響　その1
第７週　少子高齢化と経済学（５）：少子高齢化の影響　その2
第８週　後半授業のまとめ
【授業及び学習の方法】
第１週は、授業のガイダンスと共に、グループワークを行います。
第２～８週は、冒頭に簡単な講義、その後、講義内容に関連したグループワークを20分程度行った上で、話し合った内容を各班ごとに報告してもらいます。報告内容に関連した発展内容も含めて、その日のテーマについて理解を深めていきます。グループは、ランダムで毎回新しく指定する予定です。
上記のテーマは、履修生の理解度等に応じて、変更となる可能性もあります。
一部、(中学校レベルの）計算問題等を含む、演習を実施する予定です。

教科書・参考書等

特に指定はありません
図書館等で自分の理解に役立つ書籍を参照してみてください

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回、新しいメンバー（3～5人程度）でのグループワークを実施することを承知の上で履修してください。
電子機器の使用は、教員の指示があった場合に限ります。その他の時間帯は、荷物の中にしまっておいてください。

授業科目名 神経科学の基礎－脳を知る Introductory Neuroscience	時間割 ４月１１日（木）～６月６日（木） 毎週木曜日　１６時２０分～１７時５０分（計８回） ただし、５月９日（木）は振替授業で月曜日の授業になりますので、授業がありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 太田　健一.大給　日香里.鈴木　辰吾. 三木　崇範	

学習時間　　講義内容を十分理解するには、授業に出席することに加え、十分な事前学習（予習）を事後学習（復習）が必要である。
講義90分 x 7回 ＋ 講義45分 x 1回 ＋ 自学自習（準備学習 15時間＋事後学習15時間）

授業の概要
[キーワード] 健康・脳・発達・ストレス
ヒトは年齢を重ねると、遅かれ早かれ様々な病気にかかることになる。身体の不調のみならず、精神的不調に至ることもある。私たちの体と脳の健康を保つためには、どのようなことに気をつけるべきか？
その疑問に答えるべく、脳と体の基本的な仕組みとそれが崩れた時の病的状態を学び、脳と体を健康に保つための方策について考えていく。

授業の目的
脳と体の正常な機能（健康状態）を保つ仕組みとそれが崩れた状態（罹患状態・心身不調状態）を学ぶことによって、大 学生として、また将来においては社会人として、健全に生きる為の糧とする。

到達目標
１．脳と体の健康が保たれる仕組みを理解できる。（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）
２．脳と体の健康が崩れた病的状態を理解できる。（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）
３．脳と体の健康を保つために重要なことを医学的に理解し、自らの問題あるいは社会の問題としての広い視野をもって行動することができる。（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
本授業は全て講義形式で構成される。各担当教員がパワーポイントや資料を用いて、原則授業計画に記載のテーマで講義を行う。各授業時間の最後の15～30分程度を小テスト（ミニレポート等含）の時間に当てる。最後の8回目に、まとめのテストを行う。
第1回：（三木）脳が統合する体の機能；概論
第2回：（三木）脳の発達と体の成長－生活習慣病との関連
第3回：（大給）ストレスと脳
第4回：（鈴木）神経科学の基礎；脳の機能と分子の動き
第5回：（鈴木）神経科学と遺伝子；脳の機能と遺伝子の働き
第6回：（太田）ストレスに対する体の応答
第7回：（太田）子供の養育環境と脳発達
第8回：（三木）まとめと試験
原則として対面授業とするが、場合により遠隔授業とする予定。講義日程が変更になる事がある。
脳の構造を理解した上で機能についての基本事項を理解する。さらに機能のうち、内分泌系の働き（視床下部-下垂体-副腎軸）に影響を受ける脳のストレス脆弱性について学ぶ。この学習は大学生として社会人としてストレス対処法の基礎知識として役立つものと確信している。
準備学習として、高校の生物学の教科書レベルの内容は理解しておいて貰いたい。事後の学習は、場合に応じて授業の都度関連領域の成書やWEBサイトを紹介する。
参考図書の例：
・改訂版 もっとよくわかる！脳神経科学～やっぱり脳はとってもスゴイのだ！（実験医学別冊 もっとよくわかる！ シリーズ）
・Newton大図鑑シリーズ 脳大図鑑（ニュートン大図鑑シリーズ）
・人体スペシャル　脳の地図帳　原一之著　講談社
最後に、講義を受ける学生は礼節をもって受講すること。真面目に受講しない学生や礼節を欠く学生は当該授業選択の必要なしと考える（授業中の私語・居眠り・飲食・帽子着用での受講など厳禁）。

教科書・参考書等
領域が広範にわたるため、特に指定しない。講義資料は配布する場合がある。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
知識を得た後は、自分の考えを持って行動することを望む。

授業科目名 AI時代の学校教育論 Theory of school education in the age of AI	時間割 ６月１３日（木）～８月１日（木） 毎週木曜日　１６時２０分～１７時５０分（計８回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 神野　幸隆	

学習時間　　授業90分×7回＋授業45分×1回＋自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）
第1回　興味関心に基づき、学校教育に関わる探究課題を設定する。　個人のRQを設定したり、問いを精選したりする。(事後2時間)
第2回　「不登校問題」を視点にして、これからの学校制度、学校の在り方について議論する。(事前2時間・事後2時間)
第3回　「多忙化解消や働き方改革」を視点にした学校の在り方について議論する。(事前2時間・事後2時間)
第4回　「多様性やインクルーシブ、グローバル化」を視点にして、これからの学校制度、学校の在り方について議論する。(事前2時間・事後2時間)
第5回　「AIやICT活用」の長所短所を視点にしながら、授業観、教師観について議論する。(事前2時間・事後2時間)
第6回　「ギフテッドや浮きこぼれ問題」を中心に個別最適な学校教育について議論する。　(事前2時間・事後2時間)
第7回　「学生の興味関心、リクエスト」議題を視点に学校教育について議論する。　(事前2時間・事後2時間)
第8回　提出レポート準備　(事前2時間)

授業の概要
VUCAと呼ばれる時代において激変・変動する社会を迎えている。まだ近年のICT機器やAIの導入により、人とロボットとの役割区別や共生が問われている。同時に私たちは学校教育の在り方および学校観のアップデートが求められている。そこでICTやAIの導入を視点に「学校論」「教育論」「授業論」について受講者と「あり方や制度」についての議論を進めていく。また期間を通じて、教育や学校に関わる個人探究課題を設定し、原因や解決策について実証的な個人探究を進めていく。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。(D科目)

授業の目的
明治期から続く「学校制度」について、社会変化や教育学の視点から「学校」「教育」「授業」の在り方や制度について捉え直し、学校教育観や教師観、授業観などのアップデートを図っていく必要がある。アップデートした知識・理解を踏まえて、現代の我が国の学校教育の誇るべき点および改善すべく課題となっている点や方向性に関して、自分の意見を持てるように、受講者自身が課題探究を進めたり少人数で議論していくていく。

到達目標
①学校教育に関する基礎理論・教育に関する思想や制度について理解し、各自が設定した探究課題の追究を進めることができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)
②教育時事について他の学生と意見交換をし、自分の考えをより深め、高めることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)
③システム思考やデザイン思考を活用して、課題解決を進めることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
第1回　興味関心に基づき、学校教育に関わる探究課題を設定する。　個人のRQを設定したり、問いを精選したりする。
第2回　「不登校問題」を視点にして、これからの学校制度、学校の在り方について議論する。
第3回　「多忙化解消や働き方改革」を視点にした学校の在り方について議論する。
第4回　「多様性やインクルーシブ、グローバル化」を視点にして、これからの学校制度、学校の在り方について議論する。
第5回　「AIやICT活用」の長所短所を視点にしながら、授業観、教師観について議論する。
第6回　「ギフテッドや浮きこぼれ問題」を中心に個別最適な学校教育について議論する。
第7回　「学生の興味関心、リクエスト」議題を視点に学校教育について議論する。
第8回　探究課題レポート提出と発表交流

基本的には講話形式で講義を進めていくが、必要や状況等に応じてアクティブ・ラーニング（参加体験型学習）の手法を用いて授業を展開する。
特に相手の話を傾聴しようとする姿勢が自ずと身についていたといった学習成果が生じるよう創意工夫していきたい。
自学自習
第1回　「不登校問題」を視点にして、これからの学校制度、学校の在り方について議論するための資料や文献収集、およびレジメの作成（事後４時間）
第2回　「多忙化解消や働き方改革」を視点にした学校の在り方について議論するための資料や文献収集、およびレジメの作成。(事前２時間＋事後２時間)
第3回　「多様性やインクルーシブ、グローバル化」を視点にして、これからの学校制度、学校の在り方について議論するための資料や文献収集、およびレジメの作成。(事前２時間＋事後２時間)

第4回　「AIやICT活用」の長所短所を視点にしながら、授業観、教師観について議論するための資料や文献収集、およびレジメの作成。（事前２時間＋事後２時間） 第5回　「ギフテッドや浮きこぼれ問題」を中心に個別最適な学校教育について議論するための資料や文献収集、およびレジメの作成。（事前２時間＋事後２時間） 第6回　「学生の興味関心、リクエスト」議題を視点に学校教育について議論するための資料や文献収集、およびレジメの作成。（事前２時間＋事後２時間） 第7回　探究課題レポート提出と発表交流するための資料や文献収集、およびレジメの作成（事前２時間＋事後２時間） 第8回　最終探究レポートの作成と提出にむけて（事後４時間）
教科書・参考書等 指定はしないが適宜教育書を推薦して、事前や事後に読んでから参加してもらう。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中に私事スマートフォン使用は一切禁止します。少人数で議論するグループワークもあります。受け身な学習者には適せず、アクティブな課題探究を受講生に求めます。

授業科目名 私たちの暮らしと経済学 Introducti on to Economics	時間割 ６月１３日（木）～８月１日（木） 毎週木曜日　１６時２０分～１７時５０分（計８回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 持田　めぐみ	

学習時間　　講義・演習90分×8回+自学自習

授業の概要

この授業では、私たちの暮らしについて、経済学ではどのような視点でとらえることができるか、受講生同士でグループワークを行いながら一緒に学んでいきます。
今後大学生として、自分たちの生きる社会に関心を持ち、自ら進んで知識を獲得していくきっかけとなるような授業を目指しています。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。(D科目)
【キーワード】経済理論、少子高齢化、経済成長、労働、教育、観光

授業の目的

『社会科学の女王』と称される「経済学」は、私たちの暮らしを取り巻く様々な現象を分析対象としています。この授業では、「経済学」がどのような視点で私たちの身の回りの出来事を捉え、どのような観点から分析を行っているのかについて学んでいきます。

授業内では、講義に加え、毎回メンバーを変えてのグループワークを実施することで、学部の異なる初対面の人たちとのグループワークの機会に慣れ、今後の大学生活及び職業生活において必要とされるコミュニケーション能力の向上に努めます。また、他のグループの報告内容を聞くことで、授業内容の理解を深め、人にわかりやすく伝えるためにはどのように工夫したら良いか、プレゼン技術の向上にも役立てることができます。

到達目標

（その1）私たちの身の回りの出来事について、経済学の枠組みではどのような問題として捉え、分析しているのか、具体的なポイントを挙げて説明することができる。
（その2）他者と協力して、授業内容の理解に努め、他の受講生にもわかりやすく説明することができる。
（その3）これから自分たちが生きていく未来の社会について、学修したことを踏まえた上で、自らの視点で考えてみることができる。
【香川大学共通教育スタンダード】①、②-1、②-2、②-4

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】
第１週　授業のガイダンス
第２週　経済学の基礎（1）
第３週　経済学の基礎（2）
第４週　教育と経済学
第５週　世代の経済学
第６週　人口構造の変化と経済学
第７週　観光と経済学
第８週　授業のまとめ
【授業及び学習の方法】
第１週は、授業のガイダンスと共に、グループワークを行います。
第２～８週は、冒頭に簡単な講義、その後、講義内容に関連したグループワークを20分程度行った上で、話し合った内容を各班ごとに報告してもらいます。報告内容に関連した発展内容も含めて、その日のテーマについて理解を深めていきます。グループは、ランダムで毎回新しく指定する予定です。
上記のテーマは、履修生の理解度等に応じて、変更となる可能性もあります。
一部、（中学校レベルの）計算問題等を含む、演習を実施する予定です。

教科書・参考書等

特に指定はありません
図書館等で自分の理解に役立つ書籍を参照してみてください

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回、新しいメンバー（3～5人程度）でのグループワークを実施することを承知の上で履修してください。
電子機器の使用は、教員の指示があった場合に限ります。その他の時間帯は、荷物の中にしまっておいてください。

授業科目名 加工食品と食生活 Relationship between processed foods and eating habits	時間割 ６月１０日（月）～７月２９日（月） 毎週月曜日　１６時２０分～１７時５０分（計８回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 小川　雅廣	

学習時間　　授業90分×7回 ＋ 授業45分 ＋ 自学自習（準備学習15時間＋事後学習15時間）

授業の概要

【キーワード】食品問題

この授業では、現代社会における加工食品の問題点をテーマとして取り上げる。21世紀に生きる私たちが食品に求めるものは何ですか。１）安心安全ですか、２）おいしさですか、３）低カロリーですか、それとも４）健康改善効果ですか。ここに挙げた４つの事柄について講義する。また、講義で提供した知識をもとに、食品の問題点と今後求められる食品について、消費者と製造者の両方の視点から、グループディスカッションを行いながら考えていく。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。(D科目)

授業の目的

現代の加工食品における課題を認識できるようにするとともに、消費者はこれからどのような特徴をもった食品を求めていくのか、食品の製造者はどのような発想で食品を開発していくべきなのかなど、今後の対応策を科学的な根拠をもとに考える力を身につけるようにする。

到達目標

１．21世紀社会の加工食品の現状と課題を説明することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。

２．現代の食品がもたらす諸問題の解決に向けた自分の考えを論理的に記述することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

第１回　オリエンテーション：食をめぐる現状と課題
第２回　食品加工の意義と目的
第３回　栄養とカロリーの関係
第４回　おいしさの追求
第５回　加工の重要性と食品添加物の使用１
第６回　加工の重要性と食品添加物の使用２
第７回　特定保健用食品と機能性表示食品
第８回　まとめ（45分間授業）と期末レポートの作成

【授業及び学習の方法】

授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各回の授業の終盤にミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び自ら学んだ内容の整理を促します。また、授業外では、加工食品のパッケージを入手してもらい、そのパッケージの記載内容をまとめてきてもらいますので、事前準備をしっかり行ってください。この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第１、２回　農林水産省のHPから「知ってる？日本の食料事情」にアクセスし、我が国と世界の食料事情に関する情報を調べ、整理する。(9時間)
第３回　文部科学省のHPから日本食品標準成分表2020年版（八訂）に関する情報を調べ、整理する。(4.5時間)
第４回　自身が興味のある食品企業のHPから販売されている食品の情報（栄養成分や商品の特徴など）を調べ、整理する。(4.5時間)
第５、６回　日本食品添加物協会のHPから食品添加物の役割、安全性、表示などについての情報を調べ、整理する。(9時間)
第７回　消費者庁のHPから食品表示制度（特定保健用食品、機能性表示食品、栄養機能食品など）に関する情報を調べ、整理する。(4.5時間)

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

初回に履修に関する説明・注意を行います。ミニレポート、期末レポート未提出の場合は単位認定しない。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業科目名 化学 Chemistry	時間割 ６月１１日（火）～７月３０日（火） 毎週火曜日　１８時００分～１９時３０分 １９時４０分～２１時１０分（１日２回、計１５回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 山田　佳裕.吉原　明秀	

学習時間　　授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

副題は「農学からみた持続可能な未来に向けた環境と食」である。この講義では環境及び食に関する問題を題材に、持続可能な未来に必要な考え方について学ぶ、教員はテーマの設定と話題提供を行う。それをもとに、多様な情報の収集し、客観的に自らの考えを組み立て、考察や討論を行う。その結果をふまえて、再度自らの考えを組み立てる。

授業の目的

21世紀は環境と食の時代だと考えられている。持続可能な社会の構築には自然との共生に基づいた食料の生産が不可欠であり、緊急の命題となっている。この講義では、化学を中心とした科学の視点から環境と食について考えることを通して、客観的思考に必要なプロセスを理解するとともに、自ら考える力を身に付けることを目的とする。また、自らの考えを他人に伝えること、他人の考えを取り入れ自らの考えを構築する必要性を理解することを目的とする。

到達目標

・環境及び食に関する問題に関して、基礎的な科学知識を身に付けるとともに、それらを再構築し、将来の食と自然との共生に役立てるための批判的・客観的思考が出来るようになる（共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」、に対応）。
・異なった考えを取り入れ、より発展した考えを再構築出来る（「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【前半】
1）ガイダンス
2）テーマ「気候変動について考える」　太陽光や風の利用が気象変動対策になるのか？
次回までに情報収集及びグループ討論
3）討論会
4）テーマ「化石燃料の利用について考える」　温暖化に傾注しても良いのか？
次回までに情報収集及びグループ討論
5）討論会
6）テーマ「農業と水環境について考える」　食と環境について、市民、科学者、行政、農家の立場から考え、農業と水環境をテーマとしたロールプレイングを行う。
次回までに情報収集及びグループ討論
7）討論会「水との共存」
8）中間試験
【後半】
9）ガイダンス
10）直面する食料の問題
11）食料供給技術（植物）
12）食料供給技術（動物）
13）未利用資源からの食料の生産
14）機能性食品の生産
15）各グループで設定したテーマに対してのプレゼンテーションならびに質疑応答
16）期末試験
【授業及び学習の方法】
【前半】2回分を1セットとし、1回目は教員から話題提供、2回目は数人のグループで行った討論の内容や結果を代表者が発表する。1回目と2回目の間に、その回のテーマに関する情報収集、多様な視点の理解、自身の考えの構築といった手順で各自の意見をまとめ、グループ討論を行う（自主学習に相当）。発表、意見交換の後、自らの考えを再構築し、レポートにまとめる。
【後半】9回目はガイダンスおよびグループ分けを行う。10回から14回までは教員から持続可能な未来に向けた食についての講義を行う。また、15回目の講義までに設定したグループで興味をある食に関する問題を決め、その問題および解決方法に関するパワーポイントを用いて発表資料を作成する（自主学習に相当）。15回目の講義においてパワーポイントを用いて発表を行う。また発表後、質疑応答を行う。また最終の16回目では後半の内容に関して期末試験を行う。

教科書・参考書等

教科書は定めない。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

積極的に取り組み、考えることが必要です。

授業科目名 歌唱法基礎Ａ Fundamentals of Vocal A	時間割 ４月１１日（木）～８月１日（木） 毎週木曜日　１６時２０分～１７時５０分（計１５回） ただし、５月９日（木）は振替授業で月曜日の授業になりますので、授業がありません。 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 若井　健司	

学習時間　　講義・演習・実技×１５回＋自学実習（準備学習15時間 + 事後学習15時間）

授業の概要

歌唱指導に必要な正しい発声の基礎を理解し、各自の自然な声を見い出させるために、声を使った多種多様な表現を実践する。日本語の発音を再認識し、美しい母音が必要な基礎的イタリア歌曲を中心に歌唱体験を進めていく。

さらに教材として、身近な郷土に伝わる日本民謡・わらべうた等を取り上げ、日本古来の旋法になじませながら、その歌唱表現についての実践研究を行う。

授業の目的

①初等教育に必要な声を使った表現、歌唱指導に必要な基礎的発声・歌唱技術を習得させる。
②身近な環境から生まれ、伝わってきた日本古来からの歌を再認識し、伝統的な音楽の歌唱表現を創造を持たせる。
③言葉による表現を多彩に使用できるようにし、声を使ったコミュニケーション術を身につけさせる。

到達目標

１，初等教育の教師として、必要な声量を身につける。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)
２，歌唱教材を自信を持って歌唱できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)
３，伝統的な音楽の唱法を身につけ対応できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

実技練習を加えた演習形式
(1)オリエンテーション
(2)言葉と音楽の結合①（日本語発音の特性)
(3)言葉と音楽の結合②（言葉と発))
(4)呼吸法①　(呼気・吸気)
(5)呼吸法②（腹式・胸式)
(6)朗読劇①　(歌唱と朗読)
(7)朗読劇②　(読み合わせとは)
(8)朗読劇③　(朗読劇発表)
(9)歌唱の実践①　(中学歌唱教材)
(10)歌唱の実践②（ナポリ民謡)
(11)歌唱の実践③（歌唱発表)
(12)イタリア歌曲の実践①（発音・対訳)
(13)イタリア歌曲の実践②（歌唱練習)
(14)イタリア歌曲の実践③（歌唱実践)
(15)授業のまとめ
(16)定期試験
本科目は音楽区分における一般的包括的内容を含む。
第1回から第15回を通して、一般的包括的内容を網羅する。
【授業及び学習の方法】
実技を中心とした演習を主な内容として授業を進めていきます。
この科目は基本的に対面授業を行います。
【自学自習のためのアドバイス】
・言葉と音楽の結合①②：日本語の発音の再確認、発音の分析、発音器官の仕組みについて調べる。5時間
・呼吸法①②：身体の吸気器官、呼気器官の仕組み、腹式呼吸、胸式呼吸の実践練習。反復練習を続ける。5時間
・朗読劇①②③：劇に必要な要素の確認。台本の分析（時代・背景・人間性・感情等）をし読み合わせのための練習をし、声による表現の実践を行う。7時間
・歌唱の実践①②③：歌唱に必要な発声（呼吸・支え等)、歌詞の分析、拍子の体感、音の高低・長さ・旋律性について考え、歌唱練習を各自行う。7時間
・イタリア歌曲の実践①②③：バロック時代に作曲されたマドリガル・オペラアリア作品を美しい母音を持ち、日本語と同じ母音を持つイタリア語の発音を確認し発音練習を行う。美しい発音と共に美し旋律を歌唱できるよう練習する。６時間

教科書・参考書等

テキストを授業ごとにこちらで用意する。
必要に応じて、指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ＡとＢは、必ず同一年度に連続して履修すること。２年生及び１年生履修可能

授業科目名 民法入門 Introduction to Civil Law	時間割 ４月１６日（火）～７月３０日（火） 毎週火曜日　１６時２０分～１７時５０分（計１５回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 林田　光弘	

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

民法は、私たちの社会生活に関わる最も基本的な法律の一つであり、物を買う、アパートを借りる、交通事故の被害者（加害者）になる、結婚するなど、日常のさまざまな場面に関係します。また、公務員試験（国家、地方上級）や法律系の各種試験（司法試験、司法書士、行政書士、宅建士など）の主要な出題科目でもあり、これらの進路を希望する学生にとっても避けては通れない科目でもあります。その一方で、民法はボリュームが非常に大きい法分野であり（２年次以降の専門科目では民法Ⅰ～Ⅳという4つの科目に分かれています）、覚えることがたくさんあって苦手意識を持つ学生も多いです。この授業では、そのような重要だけれども難しい民法という法律について、基本的な概念や制度を説明し、民法の全体像を理解することができる内容になります。

授業の目的

この授業は、民法に関する基本的な概念や制度について学ぶことで、民法の全体像を理解することを目的としています。また、２年次以降の専門科目（民法Ⅰ～Ⅳ）への橋渡しも目的とします。

到達目標

受講者は、①民法に関する基礎的な知識を習得するとともに、②それを用いて社会的紛争を法的に分析・批判する能力を獲得し、③自らの考えを論理的（法的）に組み立て・表現する能力を体得することができます。
これらの能力は、ディプロマポリシー（DP）に掲げる「b：知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」、「c：問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に関連します。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

本授業の授業計画は以下のとおりです。ただし場合によって内容や説明の順序を変更する可能性があります。

【授業計画】

第1回　ガイダンス
第2回　契約とは
第3回　契約の有効性
第4回　契約の履行
第5回　契約の不履行とその救済
第6回　契約の履行確保
第7回　代理人による契約
第8回　売買以外の契約
第9回　所有権とは
第10回　所有権の取得
第11回　不法行為
第12回　夫婦
第13回　親子と高齢者
第14回　相続
第15回　まとめ

【授業の進め方】

この授業は教員が作成する講義レジュメに基づき行います。
講義レジュメは事前にMoodleにて配布し、紙媒体での配布は行いません。受講に際しては講義レジュメのデータ又は各自で出力した紙媒体を忘れずに持参してください。
教科書の購入は必須ではありませんが、何らかのテキストが手元にあると予習・復習に便益です。詳しくは初回授業の際に説明します。

【授業の形式】

この授業は対面での実施を基本とします。
ただし状況により授業の全部または一部を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のアドバイス】

この授業では各回の終了時に次回取り上げる内容についてアナウンスします。そこで当該内容に関するテキストを事前に読み、ある程度理解しておいてください（2時間程度を目安）。
また各回の授業終了後にはその回の授業内容を振り返り、自分の頭の中で再現してみてください。またレジュメおよびテキストの該当箇所を再読してください（2時間程度を目安）。

教科書・参考書等

特定の教科書は指定しません。予習・復習に用いる参考書については第1回のガイダンスで説明します。
講義レジュメはMoodleにてデータを配布し、紙媒体での配布は行いません。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業の履修や授業内容について質問がある場合、下記アドレスにメールしてください。

授業科目名 刑事法入門 Introduction to Criminal Law, Criminal Procedure law, Criminal Policy and Victimology	時間割 ４月１５日（月）～７月２９日（月） 毎週月曜日　１６時２０分～１７時５０分（計１５回） ７月１７日（月）は祝日ですが、授業があります。
担当教員名 平野　美紀	初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。

学習時間　　講義90分　×　15回　＋　自学自習（準備学習 15時間 + 事後学習 30時間）

授業の概要

毎日たくさんの犯罪事件が報道されています。みなさんの周囲にももしかすると犯罪事件が起きているかもしれません。また裁判員制度も開始され、犯罪事件や裁判をより身近に感じ、そして刑事司法に変革が求められる時代です。本授業では、①1年次後期の刑法各論Iの導入として、そして2年次以降に学ぶ刑法総論・各論II・刑事訴訟法、少年法の枠組みにあたる基礎的な知識を身につけること、そして、②他の授業では扱われることが少ない犯罪者の処遇や社会復帰、被害者にかかわる法制度を学ぶこと、具体的には、法務省が現在力を入れている再犯防止対策や、刑務所等での処遇に関して定める刑事施設収容法、仮釈放で刑務所出所した後の保護観察制度等を定める更生保護法、20歳未満の少年が犯罪行為等を行った場合に関する少年法、犯罪被害者の権利や関連する法制度とその運用を学びます。また、近年問題になっている、家庭内における犯罪としての児童虐待やDVの防止、精神障害を有する者が重大事件を行った場合の処遇制度についても扱います。

授業の目的

刑法や刑事訴訟法などの刑事法を学ぶ上で必要な基礎知識を身に付け、刑事司法の全体像を理解できるようし、また今後の刑事司法上の課題を理解していくために、次の４点を目標とします。
①刑事法にかかわる法律の基礎を習得する。
②刑事司法の仕組みを理解する。
③犯罪者処遇や被害者支援の法制度を学ぶ。
④現代社会における刑事司法の課題について関心を深める。

到達目標

①刑事法にかかわる法律と刑事司法の仕組みについて、説明できる【b：知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識】
②犯罪者処遇や被害者支援の法制度について、説明できる【d：倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観】
③現代社会における刑事司法の課題について、自分の考えを説明できる【a：言語運用能力／課題解決のための汎用的スキル】

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

教科書・レジュメに基づいた講義形式で行います。
ゲストスピーカーによる講義も予定していますが、ゲストスピーカーの日程調整のため、順序は変更の可能性があります。
(1) ガイダンス：刑事法とはなにか、刑事司法の仕組み
(2) 犯罪と刑罰について その1：現代日本の犯罪現象と再犯防止
(3) 犯罪と刑罰について その2：刑法の存在意義と刑罰の種類、刑罰の決め方
(4) 刑法の基礎
(5) 犯罪論の基礎（構成要件・違法性・責任）その１：犯罪の成立要件と構成要件
(6) 犯罪論の基礎（構成要件・違法性・責任）その２　：違法性阻却事由と責任能力
(7)　故意・過失・共犯
(8)　【小テスト】と解説
(9)　加害者の施設内処遇と社会内処遇
(10)　少年法と非行少年の処遇
(11)　被害者の支援制度
(12)　犯罪被害者の方による講演会：犯罪被害者支援について【小レポート対象】
(13)　レポートの講評。現在の課題（家庭内犯罪としてのDV・児童虐待と医療観察法）
(14)　講演会：現代社会と再犯防止【最終レポート課題】（時間延長の可能性あり）
(15)　まとめ
＊この科目は基本的に対面授業を行います。
【学習の方法】
予習について：初回授業でレジュメを配布し、教科書も指定していますので、予習を中心に行うことを推奨します。
復習について：配布する練習問題（チェックシート）で自分の理解度を確認してください。授業中に解説します。
やむを得ず欠席した場合には、Moodleで授業の進行を確認しながら自学しておいてください。
【自学自習時間の目安】（準備学習 各回１時間程度 + 試験準備やレポート執筆も含めて事後学習 35時間程度）

教科書・参考書等

教科書：井田良『基礎から学ぶ刑事法（第６版補訂版）』有斐閣アルマ（有斐閣、2022）1,800円
参考書（必須ではありません）:『法律用語辞典（第5版）』（有斐閣、2020）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

日ごろから、新聞等で報道されている犯罪事件や刑事裁判について関心をもっていてもらいたいと思います。

授業科目名 政治学入門 Introduction to Political Economy and History	時間割 ４月１２日（金）～８月２日（金） 毎週金曜日　１６時２０分～１７時５０分（計１５回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 金子　太郎	

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（相当の読書量を必要とする）

授業の概要

現在の日本では様々な自由（信教の自由、思想・信条の自由、報道の自由など）が認められていて、不正なく普通選挙が行われています。この２つの条件を満たしている国を「自由民主主義（リベラル・デモクラシー）」の国と言います。また、現在の日本は経済活動においては市場経済を基本に経済運営を行っている資本主義体制の国です。自由民主主義や資本主義は皆さんにとっては空気のように「あって当たり前のもの」かもしれませんが、歴史的、地理的な広がりを持って世界史を見てみると、全然そうではありません。どういう歴史的経緯で人類がこれらの政治制度、経済体制を持つようになったかを知ることは非常に重要です。

この講義では、近代市民革命（イギリスのピューリタン革命・名誉革命、アメリカ独立革命、フランス革命）の時代から人類がどのような歴史の経緯を経て、これらの政治制度、経済体制を得ていったかを考えてみましょう。

同時に地理的にも広く現在の世界を見てみましょう。世界には自由民主主義、資本主義の国はどれくらいあるでしょう？意外と少ないことに気がつくはずです。

皆さんが歴史的かつ地理的に視野を広げて政治、経済、歴史、国際政治の問題を考察する視野を持てるようになることがこの講義の目標です。

そういう視野を持って、現在の日本が直面している問題についても考えてみましょう。

授業の目的

①歴史的かつ地理的に視野を広げて、政治、経済、歴史・国際政治の問題を考察できるようになること。
②読書の面白さを感じて欲しい。

到達目標

①歴史的かつ地理的に視野を広げて、政治、経済、歴史・国際政治の問題をとらえられるようになること。
②読書の習慣を始めること。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

第１回　近代以前の統治（強者の支配）と近代市民革命
第２回　１９世紀　自由主義
第３回　１９世紀　資本主義経済の発展、帝国主義、社会主義、共産主義、ナショナリズム
第４回　　つづき アヘン戦争～アジアの植民地化、幕末～明治維新～日本の近代
第５回　　つづき
第６回　２０世紀　戦争と革命の世紀
第７回　第1次世界大戦
第８回　　つづき
第９回　　戦間期
第１０回　つづき
第１１回　第2次世界大戦
第１２回　日中戦争、アジア・太平洋戦争
第１３回　つづき
第１４回　つづき
第１５回　まとめ

講義中にかなりの数の課題図書を指定するので、読んで欲しい。大学の勉強は「講義を聴いて試験でそれを答案に書けばいい」という受動的なものだけではない。自ら読書をする習慣を大学１年生の前期から身に付けて欲しい。また、読書が結構面白いものだということを感じて欲しい。

この科目は全回対面授業を行う。ただし、状況によっては全てまたは一部の回の授業形態を遠隔配信へと変更する可能性がある。

予習は必要ありませんが、復習として講義で配布したプリントを１時間くらいかけてよく読み返して下さい。

教科書・参考書等

半藤一利『昭和史 1926-1945』（平凡社文庫）は講義中にも読むので必ず購入すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

試験は課題図書を持ち込み可にする予定だが、事前によく読んで、どこに何が書いてあったかを覚えておかないと解けない問題が出るので、３ヶ月半ほどで課題図書をよく読んでおいて欲しい。読書計画を自分で立てて実行して下さい。

授業科目名 法学入門【(夜間主)】 Law for Beginners	時間割 ４月１２日（金）～６月７日（金） 毎週金曜日　１８時００分～１９時３０分 １９時４０分～２１時１０分（１日２回、計１５回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 鹿子嶋　仁	

学習時間　　講義９０分×１５回＋自学自習（事前学習30時間,事後学習30時間）

授業の概要

この授業は、履修者が、法学に関して全くの初心者であるということを前提として、今後皆さんが学ぶことになる様々な法分野（憲法、民法、刑法等々）を理解する上で、共通して修得しておくべき法学に関する基礎的事項を解説します。

授業の目的

法学を学ぶ上で最低限必要となる基礎的知識につき、これを正確に理解し、説明できるようになることを目的とします。また、図書やデータベース等を利用した法情報の収集についても実践的な技能を修得してもらいます。

到達目標

1. わが国の実定法体系の概要を理解し、法解釈等で必要となる基礎的知識を修得する。(b：知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識)
2. わが国の訴訟制度の概要を理解し、判例を読解する上で必要となる基礎的知識を修得する。(b：知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識)
3. 法律文献や判例情報等の法情報を取得する方法を身につける。(c：問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。

第1回　ガイダンス（国内法の全体像）
第2回　実定法、法令用語の読み方
第3回　法解釈の基本①
第4回　法解釈の基本②
第5回　法解釈の実践①
第6回　法解釈の実践②
第7回　訴訟制度①
第8回　訴訟制度②
第9回　判例の読み方①
第10回　判例の読み方②
第11回　判例の読み方③
第12回　判例の読み方④
第13回　法情報の収集等①
第14回　法情報の収集等②
第15回　授業のまとめ

■自学自習のアドバイス

事前学習：毎回次回までに調べてくる事項を指示します。ネット上の検索エンジン等を利用して、各自指示された事項を調べてもらい、次回の授業で報告してもらいます。(学習時間の目安：各回２時間程度)
事後学習：各回の授業で扱った内容につき確認問題をmoodleに掲載しますので各自期限内に解答してください。正解と解説は解答期限経過後に表示されます。(学習時間の目安：各回２時間程度)

教科書・参考書等

毎回配布する資料をもとに解説します。
なお、法学入門として有益な図書等については、適宜授業において紹介します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特になし。

授業科目名 流通マーケティング論 Distribution and Marketing	時間割 ４月１６日（火）～６月４日（火） 毎週火曜日　１８時００分～１９時３０分 １９時４０分～２１時１０分（１日２回、計１５回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 渡邉　孝一郎	

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

本講義において、マーケティング論と流通論の基礎を学習していきます。メーカー（生産者）は、消費者に製品・サービスを買ってもらうために、様々な工夫を凝らしています。こうした工夫をマーケティングといい、企業活動においてマーケティング論の理解は不可欠になっています。また同時に、流通業者も消費者に商品を買ってもらうために、様々な革新を起こしてきました。

本講義では、マーケティングでは4つのP(Product, Price, Promotion, Place)を中心に、流通では、その革新性を中心に講義・グループワークなどを通してマーケティング論・流通論の理解を深めます。

授業の目的

・マーケティング・流通の基礎事項を理解することで、製品・サービスが売れる仕組みと流通の革新性を理解すること

到達目標

この講義の到達目標は以下の2つである。

・マーケティング・流通の基本的な事項を理解できること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応)

・マーケティング・流通の観点から、企業の戦略を分析できるようになること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応)

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業計画】

(1)講義オリエンテーション
(2)流通・マーケティングの魅力
(3)マーケティングとは？
(4)マーケティングの基礎概念
(5)製品のマネジメント
(6)価格のマネジメント
(7)プロモーションのマネジメント
(8)チャネルのマネジメント
(9)流通とは？
(10)流通構造と
(11)流通理論①「売買集中の原理他」
(12)流通理論②「小売業態発展理論他」
(13)商業集積と外部性
(14)延期と投機
(15)おわりに：これまでの授業の復習と試験について解説します

【講義及び学習の方法】

授業は原則、対面による講義形式で進めますが、moodleやグループワークなどを用いた演習も取り入れます。また、数回の講義ごとに小レポートを課し、講義内容の理解を促します。

【自学自習のアドバイス】

講義ごとに、該当する講義内容を復習する。(15時間)
講義ごとに、マーケティング戦略の観点から企業分析をおこなう。(15時間)
小レポートの作成。(10時間)
中間レポートの作成。(10時間)
期末レポートの作成。(10時間)

【自学自習に関するアドバイス】

事前学習：身のまわりの流通・マーケティング活動や市場の動きに日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること（週に2時間程度）
事後学習：次の講義までに、配布プリント・教科書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること（週に2時間程度）

教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。

【参考書】

講義中に紹介します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

私語をはじめとする授業の妨げとなる行為、また授業参加への意欲が著しく低下している学生については、教育的指導を行う。

授業科目名 国際経済学 International Economics	時間割 ６月１１日（火）～７月３０日（火） 毎週火曜日　１８時００分～１９時３０分 １９時４０分～２１時１０分（１日２回、計１５回） 初回はガイダンスを行いますので、開始２０分前に大学会館２階（１７ページ参照）にお越しください。
担当教員名 山ノ内　健太	

学習時間　　講義90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）

授業の概要

世界全体でも日本でもこれまでグローバル化は急速に進み、外国を身近に感じる機会も多くなった。本講義では標準的な国際経済学を学び、グローバル化が経済に及ぼす影響を体系的に理解することを目指す。国際経済学は国境を越えた取引を分析する学問であり、財・サービスの取引を対象とする「貿易論」と資産の取引を対象とする「国際金融論」に分けられる。この「国際経済学」では「貿易論」を中心に扱い、理論と実証の両面から貿易と我々の生活の関係について考える。

授業の目的

本講義の存在意義はグローバル化に関する見識を養うことであり、本講義では標準的な貿易論を体系的に習得することを目指す。具体的には、貿易の実態や関係する制度・政策の把握、基礎的な理論の理解、関連するデータ処理能力の獲得の3点を重視する。また、貿易論はミクロ経済学の応用であり、基礎的なミクロ経済学の理解は前提とされるが、逆に貿易論を学ぶことでミクロ経済学の知識を肉付けできる場合もある。同様に、貿易統計などの処理を通して統計学の知識も深めてほしい。

到達目標

1. 世界経済や日本経済の中で貿易が果たす役割を知り、関連する制度や政策が説明できる。
2. 貿易に関する基礎的な理論を理解し、グローバル化が経済に与える影響を理論的に考察できる。
3. 貿易に関するデータを自身の手で適切に処理し、グローバル化に関する自身の考えを表現できる。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ

【授業の方法】

授業は配布スライドを用いた講義形式であり、補足説明の際には板書をする場合もある。また、パソコンを用いたデータ処理演習も予定している。授業形態としては全回対面授業の予定だが、状況によっては一部を遠隔授業に変更する可能性もある。

【授業計画】

第1回：イントロダクション
第2回：比較優位
第3回：部分均衡分析
第4回：産業内貿易と規模の経済
第5回：経済統計の入手方法
第6回：貿易政策の基礎
第7回：貿易政策の応用
第8回：貿易政策の政治経済学
第9回：国際貿易のルールと交渉
第10回：経済統計の分析方法
第11回：サービス貿易
第12回：地域貿易協定
第13回：国際要素移動
第14回：貿易と環境
第15回：まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

第1回：講義前はシラバスを確認し、講義後は小テストに解答する（4時間×1回）。
第2回～第9回、第11回～第14回：講義前には事前に公開される小テスト問題を確認して解答を考え、講義後は講義内容を復習しながら小テストに解答する（4時間×12回）。
第10回：講義前はExcelの基本的な扱い方を確認し、講義後はデータの分析方法を確認しながらレポートを作成する（4時間×1回）。
第15回：講義前はこれまでの内容を総復習し、講義後は本講義で学んだことを整理して小テストに解答する（4時間×1回）。

教科書・参考書等

【教科書】

講義は原則としてMoodleで配布するスライドに基づいて行う。ただし、内容と構成は以下の教科書に従う。小テストの問題もこの教科書の内容をベースとするため、必須ではないが購入を推奨する。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』第2版、有斐閣、2013年、2,200円＋税。

【参考書】

椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』、有斐閣、2020年、2,300円＋税。
P.R.クルーグマン・M.オブストフェルド・M.J.メリッツ著、山形浩生・守岡桜訳『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕上：貿易編』、丸善出版、2017年、4,000円＋税。
齊藤誠『教養としてのグローバル経済』、有斐閣、2021年、2,000円＋税。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

貿易論はミクロ経済学の重要な応用であり、本講義は広い視野と長期的な視点で経済全体を俯瞰する良い機会になると思われる。また、貿易に関連するデータの処理を通して得られた分析能力は、卒業論文の執筆や就職後の実務でも大いに役立つと期待される。意欲のある学生に履修してほしい。

令和６年度行事予定表（昼間）

第1学期

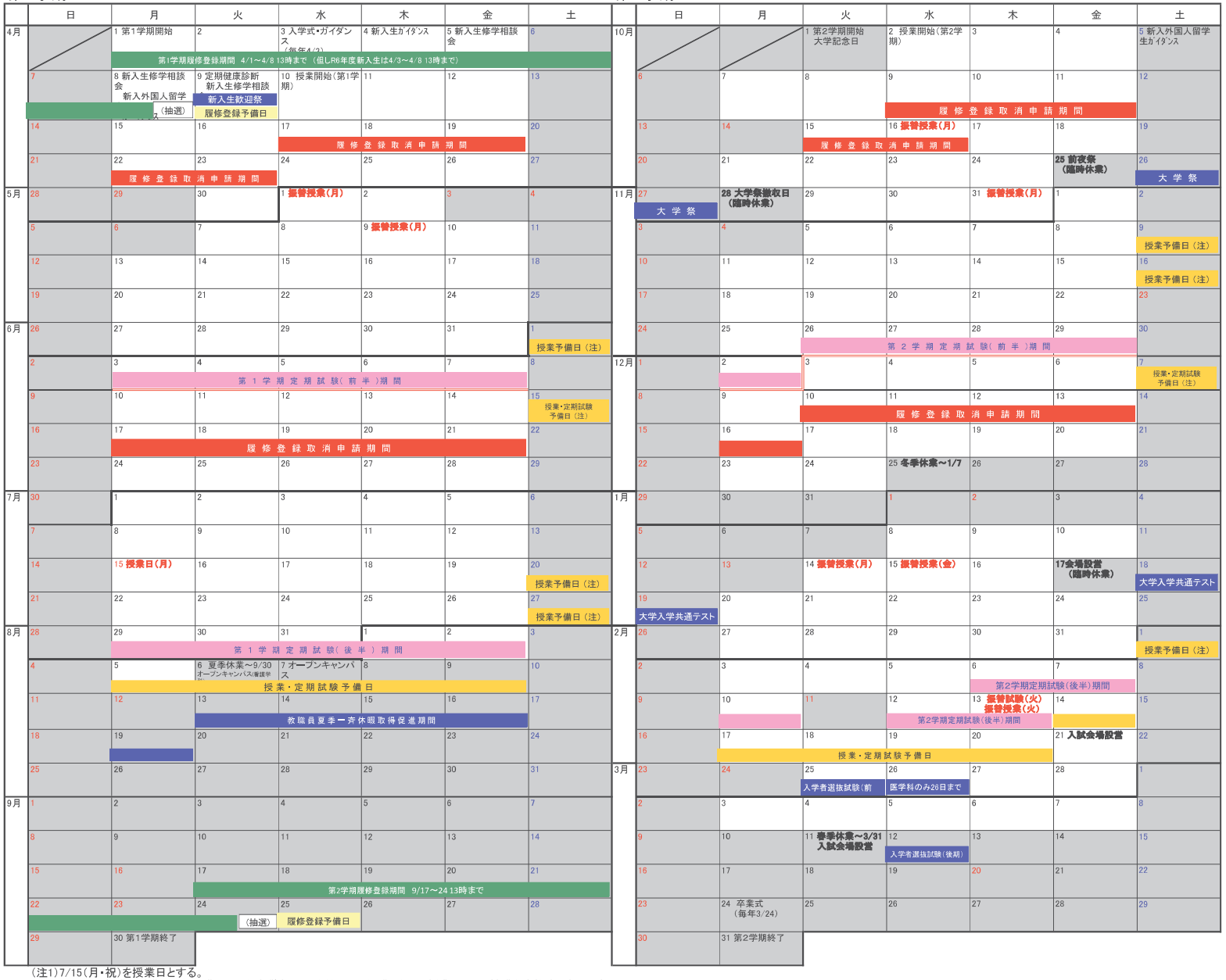
	日	月	火	水	木	金	土
4月		1 第1学期開始	2	3 入学式・ガイダンス（新年4/2）	4 新入生ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	5 新入生修学相談会	6
		第1学期・第1ｸｫｰﾀｰ履修登録期間　4/1～4/8 13時まで（但しR6年度新入生は4/3～4/8 13時まで）					
	7	8 新入生修学相談会 新入外国人留学生ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ（抽選）	9 定期健康診断 新入生修学相談 新入生歓迎祭 履修登録予備日	10 授業開始（第1学期・第1ｸｫｰﾀｰ）	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
				履修登録取消申請期間			
	21	22	23	24	25	26	27
		履修登録取消申請期間					
5月	28	29	30	1 振替授業（月）	2	3	4
	5	6	7	8	9 振替授業（月）	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
6月	26	27	28	29	30	31	1
		第2ｸｫｰﾀｰ履修登録期間 5/27～5/30　13時まで（抽選）				履修登録予備日	授業予備日（注）
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10 授業開始（第2ｸｫｰﾀｰ）	11	12	13	14	15
							授業・定期試験予備日（注）
	16	17	18	19	20	21	22
		履修登録取消申請期間					
	23	24	25	26	27	28	29
7月	30	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15 授業日（月）	16	17	18	19	20
							授業予備日（注）
	21	22	23	24	25	26	27
							授業予備日（注）
8月	28	29 DRI検定	30	31	1	2	3
		第1学期定期試験期間					
	4	5	6 夏季休業～9/30 ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ(看護学科)	7 ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ	8	9	10
		授業・定期試験予備日					
	11	12	13	14	15	16	17
			教職員夏季一斉休暇取得促進期間				
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
			第2学期・第3ｸｫｰﾀｰ履修登録期間　9/17～24 13時まで				
	22	23	24	25	26	27	28
		（抽選）	履修登録予備日				
	29	30 第1学期終了					

第2学期

	日	月	火	水	木	金	土
10月			1 第2学期開始 大学記念日	2 授業開始（第2学期・第3ｸｫｰﾀｰ）	3	4	5 新入外国人留学生ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
				履修登録期間（ただし、令和6年度10月入学者のみ対象）			
	6	7	8	9	10	11	12
				履修登録取消申請期間			
	13	14	15	16 振替授業（月）	17	18	19
			履修登録取消申請期間				
	20	21	22	23	24	25 前夜祭（臨時休業）	26
							大学祭
11月	27	28 大学祭振休日（臨時休業）	29	30	31 振替授業（月）	1	2
	大学祭						
	3	4	5	6	7	8	9
							授業予備日（注）
	10	11	12	13	14	15	16
							授業予備日（注）
	17	18	19	20	21	22	23
		第4ｸｫｰﾀｰ履修登録期間 11/18～21 13時まで		（抽選）	履修登録予備日		
12月	24	25	26	27	28	29	30
	1	2	3 授業開始（第4ｸｫｰﾀｰ）	4	5	6	7
							授業・定期試験予備日（注）
	8	9	10	11	12	13	14
			履修登録取消申請期間				
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25 冬季休業～1/7	26	27	28
1月	29	30	31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14 振替授業（月）	15 振替授業（金）	16	17会場設営（臨時休業）	18
							大学入学共通テスト
	19	20	21	22	23	24	25
	大学入学共通テスト						
2月	26	27	28	29	30	31	1
							授業予備日（注）
	2	3	4	5	6	7	8
					第2学期定期試験期間		
	9	10	11	12	13 振替試験（火） 振替授業（火）	14	15
				第2学期定期試験期間			
	16	17	18	19	20	21 入試会場設営	22
		授業・定期試験予備日					
3月	23	24	25	26	27	28	1
			入学者選抜試験（前期）	医学科のみ26日まで			
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11 春季休業～3/31 入試会場設営	12	13	14	15
				入学者選抜試験（後期）			
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24 卒業式（毎年3/24）	25	26	27	28	29
	30	31 第2学期終了					

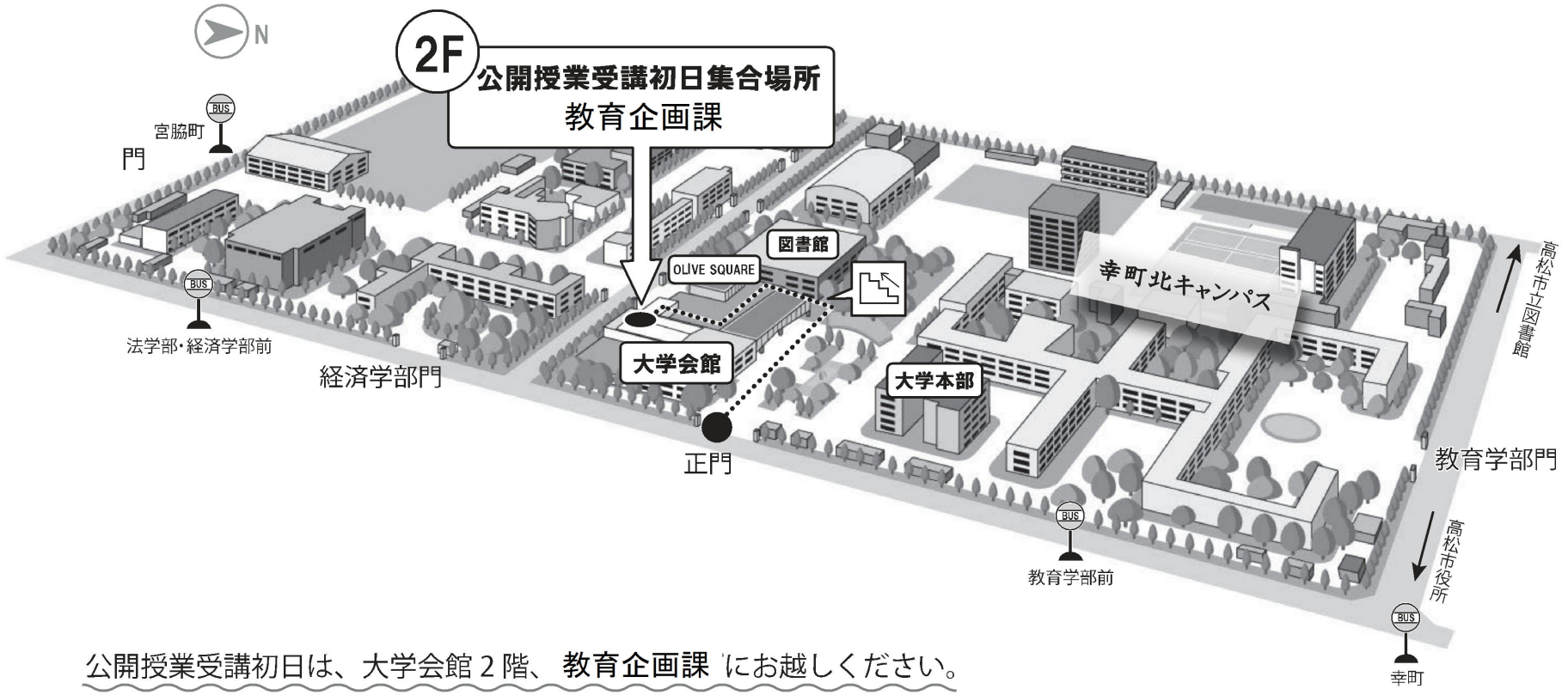
（注1）7/15（月・祝）を授業日とする。
（注2）土曜日の授業（・定期試験）予備日は、気象警報の発令等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
（注3）オープンキャンパス：8/6は医学部看護学科、8/7は医学部医学科（午前）・臨床心理学科（午後）・他の学部

令和６年度行事予定表（法・経済学部夜間主コース）



（注1）7/15（月・祝）を授業日とする。
（注2）土曜日の授業（・定期試験）予備日は、気象警報の発令等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
（注3）オープンキャンパス：8/6は医学部看護学科、8/7は医学部医学科（午前）・臨床心理学科（午後）・他の学部

香川大学幸町キャンパスマップ



公開授業受講初日は、大学会館２階、**教育企画課**にお越しください。

高校生を対象とした公開授業及び体験授業に係る受講生・保護者連絡先

受　講　生　氏　名	
受講生電話番号	
受講生メールアドレス	
保　護　者　氏　名	
保護者連絡先 （電話番号･メールアドレス）	

※携帯等のメールアドレスは大学（パソコン）からのメールが届かない可能性もありますので、
パソコンや Web のアドレスをお持ちでしたら、携帯等のアドレスと併せてご記載ください。

香川大学から受講決定の通知がありましたら､受講初日にこの用紙と受講料をお持ちください。（公開授業は１科目につき、「15 回又は 16 回の授業は 2,300 円」、「8 回の授業は 1,800 円」。体験授業は無料。）

なお､上記の個人情報は､香川大学が高校生対象公開授業及び体験授業の実施に当たり必要な範囲において利用させていただきます｡それ以外の目的に利用することはありません。